



くらしとまちに 新しいストーリーを

春の陽気に包まれて、
街の広場で駆け回る子どもたちに微笑むおばあちゃん。

郊外のマンションを新たなマイホームに選び、
地域コミュニティに溶け込む子育てパパ。

ショッピングセンターのマルシェで
ご近所さんとの会話を楽しみながら買い物するママ。

歴史とこだわりを感じながら、
高架下でちょっと大人なデートを満喫するカップル。

私たちが築いてきたのは、「心地よい」という日常の宝物。
地域に寄り添って、「くらし」と「まち」の、
1日のなにげない瞬間の笑顔を生み出してきました。

価値観の多様化、働き方の変化、デジタル化の波、山積する社会課題。
時代とともに、「心地よい」「くらし」も「まち」も変化します。

さあ、今こそ境界を跳び越えて未来を切り拓こう。

一人ひとりの「くらし」と「まち」の新たな物語を、
わたしたちは地域とともにつむぎます。

地域と人々が、ずっと心地よくあるために。

2030 VISION 2030年のありたい姿

くらしとまちに新しいストーリーを

CROSS BORDER 2030

ビジョンの
実現のために
(4つの基本方針)

一人ひとりの
ライフスタイルに
寄りそい、地域との
協働・共創により「くらし」
の心地よさをつむぐ

ひとびとが集いとなる
空間と、まちの魅力を
引き出す仕組みにより
愛着ある「まち」をつくる

変革を生み出し続ける
「人財」・しなやかな「組織」・
強い「経営基盤」をつくる

地域・お客さま・
ビジネスパートナー・
JR東日本グループとの
「連携」により
価値を創造する

2030 VISION
(2030年のありたい姿)

あらゆる境界を跳び越えて未来を切り拓き、
新たな物語をつむぐデベロッパーへ

2030年までに
想定される変化

働き方・くらし方の変化

社会的課題の高度化・複雑化

価値観の変化・多様化

新たな技術の一般化

MISSION
(変わらない志)

地域と共に「心地よい」を育み、
サステナブルな「くらし」と「まち」を創造する

一人ひとりのライフスタイルに寄り添う住まい

2030年、初夏の夜。

都心から離れたベッドタウン。

外から漂う草木の匂いにふと手が止まる。

わたしはリモートで働きつつ、オンラインで家庭菜園を学び始めた。

こうした暮らしができるのは、この地域のお陰だ。



息子との二人暮らし、働き方は柔軟だが、どうしても誰かの助けが必要な時は多い。

そんな時は、信頼できる地域の育児コミュニティで集まった仲間と助け合っている。



今朝は息子とマンションの屋上庭園で、子どもたちのためのワークショップに参加した。

息子が太陽光で動く小さな機械を組み立てたり、庭園に野菜の種を植えて笑う姿が、私にはたまらなく嬉しかった。

夜、息子を寝かしつけた後、ベランダから街の光を眺め、彼の未来を想う。

「君はこの世界で何を見つけ、何を残すのだろうか？」

あたたかい繋がりのあるこの場所で、息子の寝息を聞きながら、日々の幸せを感じる。

歩きたくなる「まち」と「みち」



今日は、そのマーケットで知り合った友達と合流して、
隣町までつづく線路沿いの緑道を歩き出す。

気持ちのいいそよ風に、高架下の賑わい。

まちの新しい顔に出会えてワクワクする道だ。

最近わたしは思う。このまちは、毎日歩きたくなるまちだ。

2030年、生まれ育ったこのまちが、なんだか面白い。

子供の頃から知っている景色が、少しずつ変化して、新たな物語をつむいでいる。

駅前に出来た壁画は、地元のアーティストが描いたもので、

写真を撮る方がいたり、待ち合わせスポットになったりしている。

わたしが生まれる前からこのまちで暮らしている、お隣さんにも評判がいい。

わたしのお気に入りには、高架下にできた新しい緑道とお店たちだ。

以前は人通りの少なかった道が、今では、人通りが絶えない。

緑道で、定期的に手作り品を売るマーケットが開かれるのも人気の理由だろう。



地域の新たなコミュニティハブになったエキマエ



2030年、エキマエに新しく出来たショッピングセンターは、買い物をするだけの場所ではない。

人々が自然と集い、楽しみ、自分たちの地域と毎日を彩る場所になっている。

入り口には、最新のマイクロモビリティが配備されており、買い物の際に自由に利用できた。

長い移動をするのが辛いわたしでも、広い施設の中を楽に移動できるのはうれしい。

敷地の中心には、屋内公園がある。

開かれた空間に、自然と子どもから大人までが集まるようになった。

ショッピングセンターのアプリでイベントのお知らせもよく届き、

今日は音楽イベントに家族で行く予定だ。

見知った顔の友人とばったり会った。

どうやら彼女も同じイベントを見に行くらしい。

この場所は、便利だけではない。

わたしにとって、みんなにとって、行くだけでこころも満たされる。



地域と共に、持続可能な社会と、新しい物語をつむぐ



持続可能で環境にも優しい「まち」をつくること。

それは、未来の世代を大切にすること。

わたしたちの行動一つ一つが、より良い未来への一步。新しい物語の1ページ。

新たな物語をつむぐことで、2030年もその先も、

地域と人々がずっと心地よく、サステナブルな「暮らし」と「まち」へ。

それが、わたしたちの想いです。

2030年、地域の「心地よい」が育まれている。

お客さま、地域住民、テナント、お取引先、行政、JR東日本グループなど、

わたしたちは、すべてのステークホルダーと共に、

サステナブルな「暮らし」と「まち」を創っている。

多様で公平で誰もが安心して暮らせる社会をつくること。

そして、お互いの知恵が集まり、より良い未来をつくり出していくこと。

